

兵庫教育大学



# 学報

第238号  
平成14年 5月

題字 中洲正堯学長



(関連記事 3ページ掲載)



## 目次

大学院連合学校教育学研究科平成14年度  
入学式式辞 .....2  
 大学院学校教育研究科平成14年度入学式式辞...3  
 学校教育学部平成14年度入学式式辞.....5  
 学内規則等 .....6  
 ・兵庫教育大学国立大学法人化準備委員会規程  
 ・兵庫教育大学国立大学法人化準備委員会専門  
 部会内規  
 ・兵庫教育大学国立大学法人化準備室要項  
 平成15年度大学院学校教育研究科修士課程  
 学生募集要項 .....8  
 学事 .....9  
 ・平成14年度学部及び大学院の入学者数等  
 ・附属学校の幼児，児童及び生徒の現在数等  
 人事 .....10  
 ・人事異動

諸報 .....10  
 ・運営評議会・教授会・学校教育研究科委員会  
 ・連合学校教育学研究科委員会  
 ・平成14年度兵庫教育大学新任職員オリエン  
 テーションの実施  
 ・留学生が花見の会，さくらまつりに参加  
 ・教員研修留学生が社町長を表敬訪問  
 ・学部新入生合宿研修の実施  
 ・平成14年度第1回附属図書館利用説明会の開催  
 ・「国立大学法人化の検討準備会議」の開催  
 ・大学院神戸サテライトの移転・充実について  
 ・施設の改修等について  
 学内委員会等委員 .....13  
 主要日誌 .....14

## 大学院連合学校教育学研究科平成14年度入学式式辞

学長 中 洌 正 堯

今まさに光の春というにふさわしいこの佳き日に、加東郡教育委員会教育長、社町助役、兵庫教育大学名誉教授をはじめとするご来賓各位のご臨席と、上越教育大学長、岡山大学副学長、鳴門教育大学長、連合学校教育学研究科長をはじめとする関係教職員各位のご列席のもとに、兵庫教育大学大学院連合学校教育学研究科平成14年度入学式を挙行し、ここに25人のみなさんをお迎えすることができますことは、本研究科にとって誠に大きな慶びとするところであります。

みなさんが学の攻究をさらに深める強い意志と情熱を持って、この度めでたく入学されましたことは、もとよりみなさんのこれまでの日々の研鑽の賜物であります。と同時に、みなさんがひたすら研究に打ち込むことに対する、周囲の方々の深い理解によるところが大きいと思います。このときにあたり、それら周囲の方々に改めてみなさんとともに感謝したいと思います。

本連合研究科は、平成8年4月に設置され、みなさんは7年目に入学されたこととなります。本連合研究科は、学校教育を中心とした教育活動や、教科の教育に関する実践的な体系的研究を行い、実践を踏まえた高度な研究指導能力を持った人材を育成することを目的とする博士課程であり、二つの専攻はいずれも実践学であります。

みなさんには、大きく二つの仕事が課せられることとなります。一つは、学校教育学の構築に参画し、博士論文としてその成果を世に問うことです。もう一つは、実践を踏まえた高度な研究指導能力を持つ人になることです。後者は、研究後継者になることや教育専門職に従事することによって具現化されま

す。

これら二つのことの実現に向かって、学校という帽子をかぶり、実践という靴をはいて研究の身だしなみを整えていただきたいと思うのであります。

実践は、総合的なものです。実践の学は、総合性をもつべきです。そうでなくては、その成果が多くの人に広がりません。このことを、一つの事例で考えてみます。

もう四、五年前に、東京工大名誉教授乾正雄氏の『夜は暗くてはいけないか』（朝日選書）という著書が話題になりました。この書物の副題は、「暗さの文化論」です。議論の中身は建築学であり、建物内外の明かり、照明の問題です。

ところが、書物の冒頭は、ピーター・ブリューゲルの「雪中の狩人たち」の絵画論議から始まっています。もちろん、その絵画に表現された鉛色の空、ヨーロッパに広がる完全曇天空と呼ばれる空の光のありようを論じているのでした。私は、教科教育学、特に国語教育の研究を中心に今日まで歩んできました。国語科の教科書教材の開発もおこなってきましたので、書名の「夜は暗くてはいけないか」に接したとき、すぐに、なだ いなだ氏の「なぜ、おぼけは夜に出る」（大阪書籍5下）を思い浮かべました。そして、書物を手にし、冒頭の絵画論から、今度は、作家辻邦生の『風の琴』（文春文庫）という短編集のことが強く迫ってきました。『風の琴』は、その副題に「二十四の絵の物語」とあるように、「十二の肖像画による十二の物語」と「十二の風景画への十二の旅」から成っています。その後者の風景画の一つがピーター・ブリューゲルの「雪の狩人」であり、その絵画から想像力を駆使して創作されたのが短編「氷の鏡」であります。この短編「氷の鏡」が、国語科教育において、すぐれた教材になりうることの大学レベルでの検証は終えています。「なぜ、おぼけは夜に出る」は、暗さと明るさ、未知と文明、死と生を論じています。「氷の鏡」は、生の世界と死の世界、此の岸と彼岸（此岸と彼岸）の行き交いの物語です。これに、宮澤賢治の「水仙月の四日」を併せ読む展開もあるのです。

ただ今はもう雪の季節は終わりました。式辞の冒頭に申しましたように、今は、光の春と言います。もうしばらくすると、「五月闇」の時を迎えます。なぜ、このような季語が生まれたのか、これも「暗さの文化論」なのです。

さて、『夜は暗くてはいけないか』を読み進んで、また驚きました。本論へ入る前に、乾氏は「だいじな寄り道の一つしなくてはならない」として、次のように言っています。「近代日本の生み出した、お

そらく唯一無二の暗さ論に、谷崎潤一郎の『陰翳礼讃』がある。昭和八年初出という古い随筆だが、文字通り陰影の美しさを語ってあますところがない。この随筆は、一般には『細雪』ほど読まれていないだろうけれど、建築家や照明技術者のあいだでは、すききらいや時代の変化にかかわらず、一目おかれてきた。ここでも、『陰翳礼讃』をひもといてみたい。」というわけであります。

乾氏は、まだ建築学科の学生だったころ、照明関係のゼミで『陰翳礼讃』が引き合いに出され、先生が「暗いところこそいい、というのは文士の言として一理あるけれども」とか「文士が技術論に口出していけないことはないが、少しは勉強して書いてくればなあ」など、揶揄半分で話していたとおぼえていると書いています。それを、乾氏は、寄り道とはいいいながら、本格的に取り上げています。私は、この姿勢に私たちの求めている実践学の方が示唆されているように思うのです。別の見方をすれば、建築学という「科学の知」に対して、谷崎の『陰翳礼讃』は「臨床の知」とでもいうべきものであります。実践学は、この「臨床の知」とどう渡り合うことができるかが重要な課題です。

乾氏の姿勢が、建築学の狭い領域にとどまらず、私どものような人文・社会科学、教科教育学分野のものをも刺激してやまないことを、一つの事例としてお話しし、実践の学は総合性をもつべきであるこ

とについて考えてみました。

博士課程の大学院は、一人の研究者が、志を同じくする世界の多くの研究者と知的交流をし、時代を越え、国を越え、文化を結んで、共に真理に近づく喜び、新しいものを創り出す感激を分かち合える場であります。

これからの教育系大学・学部の、研究・教育の活力の源泉はみなさんにあること、そして、望ましい教育現場の創造はみなさんによってなされることを確信し、精進を期待するものであります。健康に留意しつつ、大いなる成果をあげられますよう祈念して式辞といたします。

平成14年4月12日



## 大学院学校教育研究科平成14年度入学式式辞

学長 中 洌 正 堯

日本列島に春の気のある今日のこの佳き日に、ご来賓として社町助役、本学役職員をはじめとする教職員各位のご列席のもとに、兵庫教育大学大学院学校教育研究科平成14年度入学式を挙行し、263人のみなさんをお迎えすることができますことは、本学にとって大きな喜びとするところであります。

みなさんは、これから学校教育研究科に籍を置き、大学院学生として、さらに研鑽を積み、研究を深められるわけであります。

みなさんが希望する研究・教育の道に進むことができるのは、もちろんみなさんがこれまでに培ってきた学力と弛まぬ努力、そして何よりも研究・教育に対する強い関心と意欲によるものであります。そ

れとともに、みなさんがこの大学院へ入学あるいは進学できたのは、ご家族の方々をはじめ各地の教育委員会、所属長、在籍校のみなさま、また、みなさんの周囲の方々のご理解、ご支援によるものであることを改めて心せねばならないと思います。

本学は「教員の資質向上」という国家的、社会的な要請に応えて、主として現職教員に関する研鑽の機会を確保する目的で、昭和53(1978)年に創設されました。すでに成人の年齢を越え、その間、一貫して実践的な教育研究を推進し、発展をつづけております。

わが学校教育研究科の学問体系は、教育科学、教科教育学、教科専門科学などを包摂する学校教育学

を目指しています。みなさんの研究・教育は、どの科学のどの領域のことなのか、あるいは、どの領域とどの領域をつなぐものなのか、やがて始まる課題研究の中で確かめることになります。可能なかぎり広く学び、可能なかぎり深く究められることを念じてやみません。

私は、教科教育学、特に国語教育の研究を中心に今日まで歩んできました。振り返って過去に他の領域の研究から大いに刺激を受け、視野を広げることのできた一つの事例をお話したいと思います。

当時、北海道大学の石城謙吉教授が、『イワナの謎を追う』（岩波新書）という本を書いています。1984年のことです。この本は、科学物語のような書きぶりなのですが、その語りの部分を削ぎ落としていけば、学術書になる性質のものです。

話は、さらに1960年代に遡りますが、新卒で、根室標津高校の生物教師であった石城氏は休みの日には釣りに出かける生活をしています。事は、北海道の根釧原野で始まります。いろんな川へ出かけて釣りをしているうちに、赤い斑点のイワナと白い斑点のイワナがあり、それが川ごとに違っていることに気づきます。遊びから生まれた研究上の問題提起です。斑点が違う、川が違う、何故か。これは、研究問題の明確な指標となります。

研究目的の釣りが始まり、標津地方の川ごとの分布図ができてきます。これがまた見事なもので、14本の河川のうち、忠類川以北の6河川は赤点ばかり、茶志骨川以南の6河川は白点ばかりなのです。この兵庫県には、日本列島の中央部の最も低い分水嶺が氷上郡にあります。先の分布図は、日本海側は赤点ばかり、瀬戸内・太平洋側は白点ばかりというようなものです。ところが、兵庫県の場合には、間に低くても分水嶺がありますが、標津地方にはありません。北の6河川と南の6河川との間に、二つの河川、伊茶仁川と標津川があります。ここでは、両方のイワナが釣れたのです。ここに、生物学でいう「すみわけ」の問題、環境が生み出す同種内の変異か別種かという問題が発生します。

この問題の追究のためには、将来、赤点が白点かになるイワナの稚魚探しから始めなくてはなりません。稚魚の誕生は、まだ身を切るような寒さの残る早春です。しかも、イワナの稚魚のことは、地元の漁師さえ知らず、文献の記載もありません。それでも、なんとかそれらしきものの捕獲に成功します。

石城氏は、こうした資料や研究課題を抱えて、やがて、高校教師を辞し、北大の大学院へ進むことに

なります。結論を急ぎますと、別種かどうかの問題については、両者の繁殖活動をおさえ、その生活史の異なっていることをつきとめ、別種であるという結論に至ります。また、フィールドは、北海道全域の河川に広げられ、この二種のイワナが、一つは河川の形態において、もう一つは南北の地理的状況において、さらには高低の地理的状況において示している分布上の差異については、「すみわけ」というより、今も種間の抗争のただ中にあり、赤点のほう（オショロコマ）を追われつつある古い種であると判断するに至ります。オショロコマにとっては、知床半島が最後の牙城になると見て、石城氏は、赤旗白旗の源平合戦になぞらえ、壇の浦の戦いを見守っていくと結んでいます。

この書物によって、研究上の問題提起、仮説、調査・実験、推論、検証・実証、結論といった、研究推進のリアリティを学ぶことができます。私個人として最も刺激されたのは河川の見方でした。石城氏は、若き生態学者可児藤吉の河川の定義、淵と瀬の組み合わせによる上流、中流、下流の区分を参考にしながら、北海道の河川形態から上流型を山地溪流と呼び、下流型を低湿地流と呼んで、鮮やかな把握をしました。話題の知床半島は、一千メートル級の山から海岸まで一気に流れ下る河川群で、いわば上流の形態ばかりで成り立っているもの、一方、南は湿原地帯の湧き水を水源とする河川群で、いわば下流の形態ばかりで成り立っているものでした。問題の中間の河川は、一つが上流と下流の組み合わせ、もう一つは中流の形態ばかりのものだったという分析です。こうして、オショロコマは、河川の急峻さと、水温の冷涼さを背景として、白点型のイワナからの攻撃を防御し、オホーツク海からカナダにかけて、なお強大な勢力を維持しているというのです。

この研究には、自然科学ではあまり好まれないことかもしれませんが、その背景にロマンがありました。単にイワナの問題に止まらせない迫力がありました。

今、地球レベルの世界の状況、足元の日本の現場状況を考えるとき、こうして、さまざまなことから時間的に、空間的に広く学ぶことのだいじさが思われてなりません。みなさんの2年間の大学院生活が、21世紀の学校教育を中心とした教育の担い手となるにふさわしい、充実したものとなることを、切に期待して式辞といたします。

平成14年4月8日

## 学校教育学部平成14年度入学式式辞

学長 中 湧 正 堯

川の面に春の光が輝く今日のこの佳き日に、社町助役、後援会会長をはじめとするご来賓各位、本学役職員をはじめとする教職員各位、そして、ご家族の皆様のご臨席のもとに、兵庫教育大学学校教育学部平成14年度入学式を挙行し、はつらつとした169人のみなさんをお迎えすることができますことは、本学にとって誠に大きな喜びであります。

みなさんが本学に入学するまでには、みなさん一人一人の強い意志とたゆまぬ努力があったことと思いますが、今日までみなさんを支えてこられたご両親やご家族のみなさま、各学校の先生方、また、みなさんの友人たちに、みなさんとともに心からお礼を申し上げたいと思います。

みなさんは、今日から始まる学生生活をどのように送ろうと考えていますか。今日から今までとは違った生活らしい生活へとシミュレートしていくことを望みます。これから始まる4年間の生活の中で、自分という人間をつくり上げ、みがきをかけることを心がけてください。

私たちの人間形成や人格形成は、対象とのかかわりにおいて促進されます。その対象には、まず人があります。対人間です。友人、先輩、大学の教職員などとの人間関係のことです。次に対自然、次に対文化、次に対社会、次に対技能というふうに、対象の広がりやバランスが必要です。それら対象とのかかわりに、それぞれ質の高さと低さがあります。ものにブランド商品を求めるのであれば、心にも事柄にもブランド商品を求めるべきだと私などは思います。大学の4年間の多くの時間を、人間関係、対人間のことでばかりに終始している、それも閉じられた狭い範囲の、生産性の乏しい人間関係のことに費やしているケースが見られます。もっと広い世界があるのに、それが見えなくなってしまうようなことがあれば残念でなりません。そうならないために、自らの感性を目覚めさせましょう。

感性のはたらきのベースになるのは、感覚だと思います。五感覚といわれるもの、目や耳や鼻、舌や皮膚の感覚、さらには体全体の移動や平衡、運動の感覚などが生き生きしていることが、感性の活性化

に直結します。感性で捉えたものを、知的認識に置き換える習慣を自分に課すようにしましょう。その態勢があれば、授業も課外活動もきっと生きてきます。目からうろこが落ちやすくなります。

ここで、みなさんの兵庫教育大学入学記念に、ものの見方・感じ方のレッスンをしておきます。レッスンの話題は二つです。

一つは、石工の世界の話です。直方体の石があります。石の上の角から、石の内部を通って下の角までの対角線の寸法を測りたいと思います。石工の父親が息子の中学生に聞きます。中学生はピタゴラスの定理を持ち出して計算します。父親は感心しながらも、俺ならこうすると言って、直方体の石を二倍の高さにした一つの角から、斜めの対角線上の角に差しを当てて、答を出します。この話を、みなさんはどう思いますか。みなさんが、この4年間で石工の父親の計測も、息子の中学生の計算もどちらもだいたいなことなんだということ、算数・数学のことだけではなく、他のことにも当てはめてきちんと説明できるようになることを期待します。

二つ目は、昔話の一つの読み方です。「大工と鬼六」というのがあります。いろいろ絵本などにもなっていますが、木下順二のものを取り上げます。

「むかしあるところに、おそろしく流れのはい、たいへんに大きな川があった。あんまり流れがはやくてあんまり水のいきおいがすごいので、何べん橋をかけてもたちまち流されてしまった。／それで、村の人たちは、いつもまったくこまってあった。／そして、いろいろと寄りあって話しあったあげく、こんどはこのあたりでも一ばん名高いえらい大工に、橋かけをたのむことにして、その大工のところへ、使いを出した。」というわけですから、大工は承知するのですが、内々は心配です。「そこで、橋をかける場所の川の岸へ行ってみて、しゃがみこんで、腕ぐみをして、じっと目ん玉をすえて、流れる水を見ておった。」ということになります。えらい大工は、この時何をしていたのでしょうか。川を観察し、橋をかけるためのさまざまな計測、計算を、その「目」でやっていたのでしょうか。今日でいえば、土木工学者としての目、橋梁技術者としての目です。

ところが、その川からブツリと鬼が現れ、「おまえがいくら腕のいい大工でも、ここさ橋はかけられないだぞ。けんども、おまえがその目ン玉をよこしたなら、おらがおまえに代わって、橋をかけてやってもいいだぞ」と言いますね。「その目ン玉」と指定してきます。次の日に川へ行ってみると、頼みもしないのに橋は半分かかっています。その次の日は、全部かかっています。「さあ、目ン玉アよこせっ」ということになりましたから、大工は、待ってくれと言って、思わず山のほうへむかって逃げていきますね。

山の中をさまよっているうちに、子どもたちの歌声がして、その中で「鬼六」という名前を聞くんですね。名を知るといっては、相手の正体がわかるということです。正体がわかれば、こわさや不安は消えます。科学の進展は、ものごとの正体を見抜き、それを人間のために利用活用する歴史であると言えます。科学者、技術者としての大工は、川の源流まで行って、川の正体（本質）が分かったのですから、安心して帰ってきます。勝ち誇っている鬼は、目ン玉がいやなら俺の名を当ててみると、もてあそびのゲームを始めます。そこで、大工は、三つほどでたらのめの名を言って、相手をすっかり油断させ、おしまいに、ものすごくでっかい声で、「鬼六っ」とどなります。「そうしたら、鬼は、ポカポカッときえてなくなってしまった」という話ですよ。

どうですか。大工の目、科学者としての、技術者

としての目、人間の知恵の象徴としての目、その目を奪おうとする鬼すなわち川、川すなわち自然という対立の構造、さらに、川の正体つまり本質は、その上流を見なければ分からないという原理、そうしたことを、昔話の流れの底から掬い取ることもできるのです。以上で、二つの話題は終わりです。

大学は、学びを楽しむところだということも言いたかったのです。低きに流れることなく、志を高くもち、感性を生き生きとはたらかせて、兵庫教育大学における毎日が、みなさんの一生にとって、かけがえのない時となるように祈ります。

おめでとうございます。みなさんを心から歓迎いたします。

平成14年4月8日



## － 学 内 規 則 等 －

兵庫教育大学国立大学法人化準備委員会規程

### ▶ 制定理由

本学の国立大学法人化に対応するため、兵庫教育大学国立大学法人化準備委員会を設置し、規定を整備するものである。

規程第12号

兵庫教育大学国立大学法人化準備委員会規程を次のように定める。

平成14年4月25日

兵庫教育大学長 中 洌 正 堯

兵庫教育大学国立大学法人化準備委員会規程  
(設置)

第1条 兵庫教育大学の国立大学法人化(以下「法人化」という。)に関する重要事項を審議するため、兵庫教育大学国立大学法人化準備委員会(以

下「委員会」という。)を置く。

(審議事項)

第2条 委員会は、法人化に関する次の事項を審議する。

- (1) 理念・目標計画、教育内容に関すること。
- (2) 組織業務に関すること。
- (3) 人事制度に関すること。
- (4) 財務会計制度に関すること。
- (5) その他法人化に関すること。

(構成)

第3条 委員会は、次の各号に掲げる者をもって組織する。

- (1) 学長
- (2) 副学長
- (3) 附属図書館長

- (4) 連合学校教育学研究科長
- (5) 学校教育研究センター長
- (6) 学部主事
- (7) 附属学校の校(園)長のうち学長が指名した者 1人
- (8) 事務局長
- (9) その他学長が指名した者 若干人  
(委員長)

第4条 委員会に委員長を置き、学長をもって充てる。

- 2 委員長は、委員会を招集し、議長となる。
- 3 委員長に事故があるときは、あらかじめ学長が指名した副学長がその職務を行う。  
(委員以外の者の出席)

第5条 委員会は、必要があると認めるときは、委員以外の者の出席を求め、意見を聴くことができる。  
(議事)

第6条 委員会は、委員の3分の2以上の出席がなければ議事を開き、議決することができない。

- 2 委員会の議事は、出席委員の過半数でこれを決し、可否同数のときは、議長の決するところによる。  
(専門部会の設置)

第7条 委員会に、専門の事項を調査・検討させるため、専門部会を置くことができる。

- 2 専門部会に関し必要な事項は、別に定める。  
(庶務)

第8条 委員会に関する庶務は、兵庫教育大学国立大学法人化準備室が処理する。

(細則)

第9条 この規程に定めるもののほか、委員会の運営等に関し必要な事項は、別に定める。

附 則

この規程は、平成14年4月25日から施行する。

兵庫教育大学国立大学法人化準備委員会専門部会内規

▶ 制定理由

兵庫教育大学国立大学法人化準備委員会規程第7条第2項の規定に基づき、同委員会に置く専門部会に関し必要な事項を定めるため、規定を整備するものである。

兵庫教育大学国立大学法人化準備委員会専門部会内規を次のように定める。

学長裁定

平成14年4月25日

兵庫教育大学長 中 洌 正 堯

兵庫教育大学国立大学法人化準備委員会専門部会内規

(趣旨)

第1条 この内規は、兵庫教育大学国立大学法人化

準備委員会規程(以下「規程」という。)第7条第2項の規定に基づき、兵庫教育大学国立大学法人化準備委員会(以下「委員会」という。)に置く専門部会の組織及び運営等について定める。

(専門部会)

第2条 専門の事項を調査・検討させるため、次の専門部会を置く。

- (1) 理念・目標計画部会
- (2) 組織業務・人事制度部会
- (3) 教育内容部会
- (4) 財務会計制度部会  
(組織)

第3条 専門部会は、次の各号に掲げる者をもって、それぞれ組織する。

- (1) 委員長が指名した副学長
- (2) 規程第3条第3号から第9号までに規定する委員のうちから、委員会が選出する委員
- (3) その他委員長が指名した者  
(部会長)

第4条 専門部会に部会長を置き、専門部会委員のうち委員長が指名した者をもって充てる。

- 2 部会長は、部会を招集し、議長となる。
- 3 部会長に事故があるときは、あらかじめ部会長が指名した委員がその職務を行う。  
(専門部会委員以外の者の出席)

第5条 専門部会は、必要があると認めるときは、専門部会委員以外の者の出席を求め、意見を聴くことができる。

(事務)

第6条 専門部会に関する事務は、兵庫教育大学国立大学法人化準備室が処理する。

(解散)

第7条 専門部会は、その任務が終了したとき解散するものとする。

(細則)

第8条 この内規に定めるもののほか、専門部会の運営等に関し必要な事項は、別に定める。

附 則

この内規は、平成14年4月25日から施行する。

兵庫教育大学国立大学法人化準備室要項

平成14年4月25日

事務局長 裁定

(設置)

第1条 兵庫教育大学の国立大学法人化(以下「法人化」という。)に関する業務を円滑に推進するため、兵庫教育大学国立大学法人化準備室(以下「準備室」という。)を置く。

(所掌事務)

第2 準備室は、次に掲げる事項を処理する。

- (1) 法人化関係の総括及び連絡調整に関すること。
- (2) 法人化に関する情報収集及び調査・分析に関すること。
- (3) 法人化関係委員会及び専門部会に関すること。
- (4) 法人化に係る情報提供に関すること。
- (5) その他法人化に関すること。

(組織)

第3 準備室に次の職員を置く。

- (1) 室長
- (2) 次長
- (3) 主査
- (4) 室員
- (室長)

第4 室長は、事務局長をもって充てる。

2 室長は、準備室の業務を統括する。

(次長)

第5 次長は、総務部長及び教務部長をもって充てる。

2 次長は、室長の補佐を行う。

(主査)

第6 主査は、各課長及び入学主幹をもって充てる。

2 主査は、室長の命を受けて、担当する業務を処理する。

(室員)

第7 室員は、室長が指名した者若干人をもって充てる。

2 室員は、上司の命を受けて、準備室の事務に従事する。

(解散)

第8 準備室は、その任務が終了したとき解散するものとする。

(実施細則)

第9 この要項に定めるもののほか、準備室に関し必要な事項は、事務局長が別に定める。

附 則

この要項は、平成14年4月25日から施行する。

## - 平成15年度大学院学校教育研究科修士課程学生募集要項 -

募集要項の概要は次のとおりである。

### 1. 専攻別学生募集人員

専 攻	募集人員	コ ー ス 等
学 校 教 育 専 攻	105人	教育基礎コース(15人) 教育経営コース(10人) 教育方法コース(20人) 生徒指導コース(10人) 幼年教育コース(10人) 教育臨床心理コース 昼間クラス(25人) 夜間クラス(15人)
障 害 児 教 育 専 攻	25人	
教 科 ・ 領 域 教 育 専 攻	170人	言語系コース (35人) 社会系コース (25人) 自然系コース (30人) 芸術系コース (25人) 生活・健康系コース (25人) 総合学習系コース 昼間クラス(15人) 夜間クラス(15人)
合 計	300人	

(注1)定員の3分の2程度は、初等中等教育における3年以上(平成15年4月1日現在)の教職経験を有する者をもって充てることとしています。

(注2)教育臨床心理コース及び総合学習系コースは昼夜開講制であり、昼間クラスは、兵庫教育大学(社町)で講義等を開講します。夜間クラ

スは、主に兵庫教育大学大学院神戸サテライト(神戸市中央区)において、夜間に講義等を受講するクラスであり、原則として現職教員(県教育委員会等からの派遣教員を除く。)を対象とします。

### 2. 出願期間

平成14年7月16日(火)から7月29日(月)まで  
〔締切当日の消印のあるものまで受理します。〕

### 3. 入学者選抜試験

筆記試験 平成14年8月24日(土)

口述試験 平成14年8月25日(日)

### 4. 試験場

兵庫教育大学

### 5. 合格者の発表

平成14年9月12日(木)午前10時に兵庫教育大学事務局前掲示板に合格者の受験番号を掲示するとともに、同日、受験者に可否の通知書を発送します。

### 6. 学生募集要項(出願用紙)の請求方法

郵便で請求する場合は、封筒の表に「大学院(修士課程)学生募集要項請求」と朱書きし、角形2号(33cm×24cm程度)の返信用封筒(請求者の郵便番号、住所、氏名を明記し、390円分の切手をはり付けたもの)を同封し、請求してください。



- 学 事 -

平成14年度学部及び大学院の入学者数等

学校教育学部初等教育教員養成課程

区 分	入学定員 (人)	合格者数 (人)	入学者数 (人)
学校教育専修	160	175	63
教科・領域教育専修			106
合 計	160	175	169

大学院学校教育研究科（修士課程）

区 分	入学定員 (人)	合格者数 (人)	入学者数 (人)
学校教育専攻	105	124	101
教育基礎コース	15	17	12
教育経営コース	10	14	12
教育方法コース	20	18	14
生徒指導コース	10	10	9
幼年教育コース	10	18	10
教育臨床心理コース	40	47	44
昼間クラス	25	32	30
夜間クラス	15	15	14
障害児教育専攻	25	43	22
教科・領域教育専攻	170	160	140
言語系コース	35	27	25
社会系コース	25	29	27
自然系コース	30	22	18
芸術系コース	25	27	22
生活・健康系コース	25	19	17
総合学習系コース	30	36	31
昼間クラス	15	27	24
夜間クラス	15	9	7
合 計	300	327	263

大学院連合学校教育学研究科（博士課程）

区 分	入学定員 (人)	合格者数 (人)	入学者数 (人)
学校教育実践学専攻 学校教育方法 学校教育臨床	8	9	9
教科教育実践学専攻 言語系教育 社会系教育 自然系教育 芸術系教育 生活・健康系教育	16	16	16
合 計	24	25	25

附属学校の幼児、児童及び生徒の現在数等

附属幼稚園	3 歳 児	2 4
	4 歳 児	6 4
	5 歳 児	6 2
	計	1 5 0
附属小学校	第 1 学 年	9 7
	第 2 学 年	8 1
	第 3 学 年	8 5
	第 4 学 年	8 3
	第 5 学 年	1 0 1
	第 6 学 年	8 8
	計	5 3 5
附属中学校	第 1 学 年	1 1 0
	第 2 学 年	1 0 5
	第 3 学 年	1 0 4
	計	3 1 9

## - 人 事 -

人事異動  
(役職者等)

年月日	発令事項	新官職等	氏名	旧官職等
14. 5. 1	命	学長補佐 (15.3.31まで)	佐々木 正道	
"	"	学長補佐 (15.3.31まで)	難波 安彦	

## (学部等)

年月日	発令事項	新官職等	氏名	旧官職等
14. 5. 1	採用	学校教育学部研究員 (科学研究費補助金)	高尾 好	

## (事務局)

年月日	発令事項	新官職等	氏名	旧官職等
14. 4. 10	辞職		多鹿 緑	総務部庶務課研究協力係 事務補佐員(発達心理臨床研究センター)
14. 4. 25	臨時的任用	教務部教務課附属学校係員(小学校)	別 惣 裕美子	
14. 5. 1	採用	総務部庶務課研究協力係 事務補佐員(発達心理臨床研究センター)	吉田 麻奈美	

## - 諸 報 -

## 運営評議会

第1回 平成14年4月2日(火)

## (議題)

- 1 大学評価・学位授与機構が行う全学テーマ別評価「研究活動面における社会との連携及び協力」の事前調査回答について
- 2 自己評価実施委員会報告書について
- 3 教員選考における教育業績等評価に関する改善について
- 4 平成14年度の予算執行について

第2回 平成14年4月25日(木)

## (議題)

- 1 国立大学法人化準備体制について
- 2 「21世紀新構想大学プラン」について

## 教授会

第1回 平成14年4月5日(金)

## (議題)

- 1 教員の選考等について
- 2 教員選考における教育業績等評価に関する改善について
- 3 2年次進級時における学生の専修等の所属変更について
- 4 平成14年度学校教育学部授業科目担当教官の決定等について
- 5 学部学生の休学及び退学について
- 6 平成14年度学校教育学部入学者の専修所属について

## 学校教育研究科委員会

第1回 平成14年4月5日(金)

(議題)

- 1 大学院学校教育研究科担当の認定について
- 2 平成14年度大学院学校教育研究科授業科目担当教官の変更等について
- 3 協定に基づく特別聴講学生の単位認定について
- 4 大学院学生の休学及び退学について

## 連合学校教育学研究科委員会

第1回 平成14年4月12日(金)

(議題)

- 1 平成14年度入学者の決定について
- 2 主指導教官, 副指導教官の決定について
- 3 代議委員会委員の選定について
- 4 研究科学生の退学について
- 5 平成14年度ティーチング・アシスタント経費の配分方法について
- 6 平成14年度リサーチ・アシスタント(RA)経費の配分について
- 7 平成14年度入学料免除について
- 8 博士課程の自己評価について

## 平成14年度兵庫教育大学新任職員オリエンテーションの実施

本学の新任職員を対象とするオリエンテーションが、4月3日(水)、4日(木)に事務局大会議室において、23人の職員が参加して実施された。

オリエンテーションでは、新構想大学である本学の沿革・理念、現状等の説明が行われた。

## 留学生が花見の会、さくらまつりに参加

本学では、毎年、地元のボランティア団体及び地元社町国際交流協会と花見の会を開催しており、本年も多数の留学生が参加した。



4月6日(土)はボランティア団体の恒例の花見があり、また、4月21日(日)には社町国際交流協会のさくらまつりが行われた。今年は桜の開花が早く、満開を過ぎての花見になったが、日本を代表する「さくら」の下で野点や琴の演奏に耳を傾けるなど、ひとときの日本の風情を楽しみ、地元住民との親睦を深めた。

## 教員研修留学生在社町長を表敬訪問

4月10日(水)に本学の平成14年度の教員研修留学生在が、社町長を表敬訪問した。

この表敬訪問は、本年4月から1年間本学で研修を行う教員研修留学生在が、研究はもとより、様々な交流を地元の役場、教育機関、ホストファミリー等の支援を得ながらすすめるため、毎年行っているものである。

当日は、小東社町長から励ましの言葉が贈られた後、インドネシアからの留学生2人が、日本での研究の目的や自分のエピソードを述べ、意欲も高らかに日本での1年間の研究のスタートを切った。



平成14年度附属図書館利用説明会(第1回)の開催  
附属図書館利用説明会の第1回目として、4月15日(月)~19日(金)の5日間、「図書館ツアー」" 図書館資料を知る " をテーマに、新入学生を対象とした館内案内を実施した。昨年度末に書庫を改修して実現した学位論文コーナー、地階集密書架など館内を一巡しながら、今後学習や研究に利用することとなる図書館資料の配架場所と利用方法を案内した。期間中90人の学部学生・大学院学生の参加があり、好評の内に終了した。

### 学部新入生合宿研修の実施

平成14年度学部新入生合宿研修を、4月16日(火)、17日(水)に、関西地区大学セミナーハウスで実施した。

この合宿研修は、学部新入生が入学して間もないこの時期に、集団生活を通して、同級生やクラス担当教官との交流を深めるとともに、修学及び学生生活上の指導の徹底を図ることを目的として、毎年開催しているものである。



今回は学生168人、教職員20人が参加し、中洲学長の講話、佐藤副学長の修学指導、平田保健管理センター所長、長澤学校教育研究センター教授の講演等の他、新たに外部講師による講演、履修相談・質疑応答と題した履修相談などを加え、専修別・班別討議と発表及びレクリエーションを行った。

また、帰学後、クラス代表者会議主催の歓迎会が大学食堂で行われ、有意義な2日間を締めくくった。

### 「国立大学法人化の検討準備会議」の開催

「国立大学法人化の検討準備会議」が4月25日(木)に事務局大会議室において、職員40人が参加して行われた。



この会議では、2人の公認会計士から国立大学法人化に向けての、財務会計制度の概要、法人化準備スケジュール、先行している独立行政法人の課題、大学の企業会計的手法による財務諸表作成事例の紹介を受け、法人化に向けての準備事項と課題を認識することができた。

### 大学院神戸サテライトの移転・充実について

占有できる複数の講義室の確保や教育臨床心理コースの学生が実習を行うことができる施設の整備を図るため、このたび「大学院神戸サテライト」が、JR元町駅から約100mと、さらに交通の便がよい学校法人パルモア学院内(5F)へ移転した。

同サテライトでは、講義室(2)、コンピュータ教室の他に面接室(3)、面接室兼観察室、プレイルーム(2)を備えた心理教育相談室が整備された。

心理教育相談室は、学校や家庭において心理的援助を必要とする子どもとその家族を中心にカウンセリング等を通じた援助を行うものであり、併せて学生に対して実習の場として提供されることとなり、学習環境の大幅な改善・充実が図られた。



### 施設の改修等について

#### ・学生寄宿舍柵取付

学生寄宿舍(単身用)7棟のすべての居室に柵を取付け、狭隘なスペースを少しでも有効に利用してもらえるものとした。平成14年3月完成

#### ・嬉野台地区西門設置

今まで開放されていた西出入口に防犯のため門扉を設置した。平成14年3月完成

・附属中学校女子更衣室

プレハブ造りで老朽化していた女子更衣室をブロック造りで改修した。内部は、木質感豊かな仕上げとし、天井面は色彩を多用し、トップライトより自然光を取り入れることにより、明るい感じで更衣ができるスペースとなった。 平成14年3月完成

・共通講義棟エレベーター

共通講義棟にエレベーターを設置し、不人気であった上層部(2-3階)の高率利用を図った。

又、バリアフリーを考慮し、車イスも利用できるものとした。



平成14年3月完成

・附属小学校西門設置

附属の幼・小・中学校では防犯対策としてフェンス等の整備を行った。

また、進入路が開放されていた小学校に西門を設置した。門柱は自然の石を積み、門扉は曲線を持たせたお伽話のお城風とした。



平成14年3月完成

- 学内委員会等委員 -

は委員長を, は副委員長を, ( )内は担当課を示す。

○国立大学法人化準備委員会

委員氏名	職名(所属)	任期
中洲 正堯	学長	
濱名外喜男	副学長	
佐藤 光	副学長	
岩田 一彦	附属図書館長	
山下 伸典	連合学校教育学研究科長	
三野 耕	学校教育研究センター長	
今塩屋隼男	第1部主事	
河村 昭一	第2部主事	
西村 年晴	第3部主事	
森川 京子	第4部主事	
増澤 康男	第5部主事	
田中 亨胤	附属小学校長	
川本 幸彦	事務局長	
難波 安彦	社会系教育講座 教授	

[庶務課]

○実地教育委員会

委員氏名	職名(所属)	任期
正司 和彦	(大学院教務委員会副委員長) 教授(教育方法講座)	
菅原 稔	(学部教務委員会副委員長) 教授(言語系教育講座)	

[教務課]

○教員等就職対策委員会

委員氏名	職名(所属)	任期
菅原 稔	(学部教務委員会副委員長) 教授(言語系教育講座)	
天根 哲治	(実地教育委員会副委員長) 教授(教育方法講座)	

[教務課, 学生課]

## - 主要日誌 -

月 日	事 項
4月1日(月)	専修の志望に関する説明会
4月2日(火)	運営評議会(第1回) 学部入学試験委員会 学生委員会(第1回) 学生委員会・学部新入生クラス担当 教官合同会議
4月3日(水)	平成14年度兵庫教育大学新任職員オ リエンテーション(4日まで)
4月5日(金)	全学教官会議 教授会(第1回) 学校教育研究科委員会(第1回) 学生定期健康診断(10日まで) 学生寄宿舍入居説明会
4月8日(月)	大学院学校教育研究科入学式 学校教育学部入学式 大学院入学生オリエンテーション (10日まで) 学部入学生オリエンテーション(10 日まで) 学部後援会総会 附属図書館夜間開館開始(7/30まで)
4月9日(火)	附属小学校・中学校入学式
4月10日(水)	附属幼稚園入園式 教職講座
4月11日(木)	大学院修士課程及び学部授業開始
4月12日(金)	大学院連合学校教育学研究科入学式 大学院(修士課程)新入生歓迎会 連合学校教育学研究科委員会(第1回) 連合大学院入学生オリエンテーション
4月13日(土)	教員採用試験対策模擬試験(第1回)
4月15日(月)	連合大学院授業開始 図書館利用説明会(第1回)(19日まで)
4月16日(火)	学部新入生合宿研修(17日まで)
4月17日(水)	学部新入生歓迎会 教職講座
4月18日(木)	大学院教務委員会(第1回) 一般教養・教科専門セミナー
4月23日(火)	平成15年度大学院(修士課程)学生募 集要項公表 自己評価実施委員会(第1回) 学校教育研究センター運営委員会(第 1回) 学生寄宿舍棟長会 附属中学校修学旅行(25日まで)
4月24日(水)	学部入学試験委員会 学部教務委員会(第1回) 教職講座
4月25日(木)	運営評議会(第2回)

4月30日(火)	実地教育委員会(第1回) 一般教養・教科専門セミナー 国際交流委員会(第1回) 国際交流委員会留学生専門部会(第 1回)
----------	--



昼休みの大学会館前

プリントアウトの  
無駄をなくそう  
~印刷前にもう一度確認を~

編集発行 兵庫教育大学総務部庶務課

〒673-1494 兵庫県加東郡社町下久米942-1

電話 代表(0795)44-1101